

「もっと響く指導」に
するために!

生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。さらに響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 3年生0学期の計画立案



「生きたデータ」2011年10月号を参考に、
3年生0学期の指導に取り組んだところ……

2学年団のためのセンター試験分析 ダウンロード

英語			平均点		
			全国	122.8	
			本校	140.7	

◎問題別正解率 (上段…全国平均、下段…本校平均)

問題番号	設問	正解率	問題番号	設問	正解率
1	A	1	3	A	1
		2			2
	3	1			
	4	2			
1	B	1	3	B	2
		2			3

私の狙い

2学年団で新3年生の指導の戦略を立案し、新年度に向けて、生徒と共に意識を高めたいと思った

取り組み内容

現3年生のセンター試験の結果から自校の生徒の弱点を分析し、3年生0学期と4月以降の指導に生かすことを提案した

感じた課題

国語、数学、英語の3教科で目線合わせを行いたかったが、負担が大きいという理由で一部の教科しか実現できなかった

「もっと響く指導」
のポイント

①

学校文化づくりの意義を伝え、
 学年を超えて入試分析をする



3年生0学期は、2学年団の教師にとって自校の生徒の学力、特に弱点を分析し、今後1年間の指導戦略を検討すべき時期です。以前、2年生の学年主任を務めた時、当時の3年生のセンター試験の結果を用いようと思いましたが。具体的には、3年生に自己採点による小問ごとの成否を聞き、正解率を算出して指導のポイントを考えようとしたのです。ところが、一部の教科から「3学年団に迷惑ではないか」「この時期に分析する余裕が教師側がない」との声が上がり、実現しませんでした。



学年を超えて協力を仰ぐのは手間が掛かる点もありますが、**小問ごとの正解率を見てはじめて、教師が**

思ってもいなかった弱点が見えることもあるのも事実です。特に2学年団に若手教師が多い場合、**入試分析や弱点分析を経験しておくことは教科指導力の向上の面でも有意義な**のですが……。



「3年生の理解も必要ですし、先生方も大変でしょうが、**学校独自のデータを蓄積して分析する文化をつくりたい**」ともっと明確にお願いすべきだったかもしれません。



2学年団の中で、「この取り組みは、0学期に必要なのだ」という理解を共有することも大切ですよ。それが出来れば、「**3学年団に負担を掛けないように、自分たちで出来ることをしよう**」という発想が生まれるでしょう。

中堅先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、2年度目の2学年主任。



A先生(40代)

中堅先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、3年度目の3学年主任。



B先生(40代)

※このコーナーは、高校の先生方(今回は関東地方)との検討会の内容を基に構成しています。



入試真っただ中の3年生や、3学年団に負担を掛けることは確かにはばかられますが、学校全体で入試に取り組む文化も育てたいのです。3年生の手間は最小限にとどめながら、2年生に大きな影響を与えるような指導を継続的にしていきたいです。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

新3年生の指導戦略につなげるためのセンター試験分析シート



- 分析の目的** ▶ 本校の弱点を知ることで、3年生4月からの指導の戦略を検討する材料とする
- 分析にあたって** ▶ 小問単位での分析が難しくければ、大問単位での分析でもよい
- ▶ 出題傾向分析は本校の生徒が苦手な分野、頻出分野などに限定してもよい
- 中長期的意義** ▶ 学年団が連携してデータを収集・分析する文化を形成できれば、本校の独自の財産を積み上げていくことが出来る

英語

平均点

全国
本校

出題傾向分析

◎問題別正解率 (上段…全国平均、下段…本校平均)

問題番号	設問	正解率
1	A	
	B	
2	A	
	B	

小問ごとに分析する場合は、小問単位で記入できる表にする

次年度に向けて必要な指導

データを生かす指導の流れ

3年生によるセンター試験の自己採点データは、3年生0学期の意識付け、さらに3年生4月以降の指導計画に生かすことが出来る。

- 3年生の生徒の自己採点結果(小問ごと、あるいは大問ごと)を集計。「出題傾向分析」および「次年度に向けて必要な指導」は2年生の教科担当が検討する。
- 弱点分析と克服のための指導に関して、3年生の教科担当の意見を聞き、内容を精査する。この段階の作業を、若手教師の研修の場として活用する。
- 生徒の弱点克服を目的とした課題を0学期に生徒に提供し、3年生の模試で成果を生徒に検証させる。

「もっと響く指導」のために改訂すると...



それでは、センター試験分析を行う目的を、改めて2・3学年団に伝えようと思います。学校の財産を受け継いでいくことが学校文化となることも強調し、その上で、もう少し取り組みやすい折衷案も出してみたいです。



本校でも一部の教科では、小問ごとの正答率算出が難しいということでしたので、大問ごとの正答率にとどめました。これなら自己採点結果をそのまま利用できますから。また、平均点はかな

り下がってしまいますが、2年生にセンター試験を解かせて、正答率を出すことも出来ますよね。いずれも弱点分析の資料としての信頼度は落ちますが、現状把握の1つのきっかけになるのは事実です。



2学年の教師の多くは3学年に持ち上がるわけですから、この時期に現状を把握し指導の見通しを立てておくことは、必ず翌年度の指導に生きるはず。3年の4月になって慌てないで済むような「教師文化」を本校に根付かせたいと思います。

3年生0学期の生徒の意識には大きな差があります。「入試まであと1年」と焦らせるだけでは、なかなか心に響かない生徒もいます。志望を明確にし、実現に向けて行動を始めてほしいのですが……。



「生きたデータ」2011年10月号を参考に、進路志望調査をしたところ……



「もっと響く指導」のポイント

2

入試までの1年を考え始めるための「進路志望調査票」

ダウンロード

2年____組 氏名_____

将来の目標 (バイオテクノロジーも学びたい)

	第1志望	第2志望	第3志望
大学	千葉	新潟	
学部・学科	園芸・応用生命化	農・応用生物化	
国立・公立・私立・その他	国立	国立	
入試日程	前期	前期	
定員	32	35	
難易度 (B判定の偏差値)	60 (進研模試)	55 (進研模試)	
この大学・学部を選んだ理由	家から通える 大学院進学率が高い	米に関する研究が盛ん	志望校に関して調べさせる項目は、左記の他には所在地、大学の特徴、推薦・AO入試の有無、就職・進学状況などが考えられる。

私の狙い

1年後の入試本番を見据え、3年生0学期中に進路を真剣に考えさせるきっかけを与えたかった

取り組み内容

進路志望調査票に志望や入試科目などを書かせ、学年全体で面談を実施した

感じた課題

生徒によって、志望を考える真剣さにバラつきが生じている状況で、学年団としての指導も統一しきれなかった



3年生0学期に、志望進路を実現するための方策を具体的に考えさせたいと思いました。志望大・学部名や入試科目・配点を記入させ、合格のためにどれくらいの学力が必要かを整理させようと思いました。ところが、実際には将来の希望とは関連の薄い進路など、現実の目標としてふさわしくない内容を記入した生徒も散見されました。



この時期の進路志望調査票は「進路を考えるきっかけ」よりも、もう一步踏み込んでもよいと私は思います。これまで進路について考えてきた結果を実現するため、「これを頑張ろう」という内容を宣言させ、行動に移させたいところです。生徒に志望実現へ向けた

覚悟を決めさせ、本気にさせる機会と言い換えてもよいかもしれません。



確かに、そのような重みは生徒には伝わっていなかったかもしれません。この時期の調査票が、どのような位置付けで、何のために書くべきなのかということを生徒に伝えなければ、真剣さがいまひとつなのは当然ですね……。



当事者意識を高めるためにも、「三者面談に向けての、担任と本人の意思確認」と位置付けてもよいでしょう。「保護者の前で自分の志望を宣言できるように、この調査票を通して自分の気持ちを整理しよう」と話すのも一案です。保護者の志望＝自分の志望という生徒も、まだこの段階では多いですから。

生徒、教師が志望実現への宣言を行う
目的を明確にした進路志望調査票により、



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください！

HOME→教育情報誌(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2007年12月号「2年生を受験生にする『3年0学期』の意識付け」
2009年10月号「『3年生0学期』の教師の姿勢、生徒への意識付け」
2010年10月号「生徒と教師の助走期間としての3年生0学期の意識付け」



「もっと響く指導」のポイントと
「生きたデータ」改訂案

意義、目的を明確にした「進路志望調査票」



◎今回の進路志望調査票の位置付け

今、自分が本気で進みたいと思う進路を書いてください。この調査票はその実現のために、覚悟を決めて努力する、という宣言でもあります。入試本番までの1年間、先生たちも一緒に頑張っていけます。

◎記入にあたって考えてほしいこと(面談でも確認します!)

自分の将来の夢とズレがない大学・学部を選んでいきますか

志望している大学・学部の入試科目は、履修科目で対応可能ですか(対応できない場合、分からない時は相談しましょう)

2年 組 氏名

将来の目標 ()

合格のために、まずこれからの3か月間取り組んでみようと思うこと

()

	第1志望	第2志望	第3志望
大学			
学部・学科			
国立・公立・私立・その他			
入試日程			

データを
生かす
指導の流れ

なぜこの時期に進路志望調査票を書くのか、これによって生徒自身、更に教師にどのような変化が期待されるのかを明確にした上で取り組む。

1 生徒に、進路志望調査票を記入させる。その際、「実現させたい進路を宣言し、これを基に合格のための方策を考えさせる」ものとして記入させる。

2 生徒が書いた調査票を回収し、可能であれば、学年で検討会議を実施し、生徒の記入状況、今後の面談で生徒に伝えるポイントを確認する。

3 生徒と面談し、現時点の志望と、その実現のために必要な学習を確認する。志望実現のため最大の支援をすることを伝える。

「もっと響く指導」のために
改訂すると...



調査票を基に学年全体で面談も行いましたが、面談で重視する項目や、学力面で課題のある生徒への声掛けの内容が教師によって異なることもありました。面談の方針についても学年で統一が必要だったと今となっては思います。



面談前にすり合わせたいのは「否定しない」「生徒の志望を後押しする」など、生徒へのスタンスです。特に経験の少ない若手教師は、成績ギャップを必要以上に大きく捉えて、生徒に否定的な言葉を

を掛けてしまうことがあります。面談のスタンスを学年団で徹底するため、調査票に「調査・面談の位置付け」として明記しておく方法もあります。



入試分析(P.37)と同様に、この時期は、新3年生の学年団としての教師の意識も高めていくべき時期ですからね。生徒に自覚を促すだけでなく、教師も「これだけの支援をする」と生徒に宣言することで、次年度への当事者意識のある学年団づくりを進めたいと思います。